

Collection d'habillements modernes et galants avec les habillements des princes et seigneurs.

Paris, ches Basset rue St Jacques au coin de celle des Mathurins à l' image ste Geneviève, 1775—1781. (文献番号3-231)

王侯貴族の優雅な服飾図集

18世紀後期の、フランスの服飾版画253枚を一冊に装本したもので、文章説明はない。背表紙にはロシア語で『さまざまなフランスの服飾』(РАЗНЫЯ ФРАНЦУЗСКІЯ ОДЬЯНІЕ)とだけ記されており、貴重なフランスの服飾銅版画をロシアでバインドしたもの。さるロシア貴族の所有だったといわれる。この253枚のプレートの内、初めの29枚は『服飾集』Collection d'habillements modernes et galants (1775) から、残りの224枚は『ギャルリー・デ・モード』Galerie des Modes (1778—1787) から収められていることは、本館所蔵の1912年の『ギャルリー・デ・モード』翻刻版〈383.135-C-1~4〉や、Colas の書誌に照らしても推定できる。そもそも1778年から1787年にかけて出版された『ギャルリー』の初めの36枚は、1枚の画面が4つに区切られ、髪形や帽子を表したものであったが、この部分が『服飾集』から補われていて、全体が一人の姿絵として揃うように製本されている。そして、このロシア装丁本の『ギャルリー』の部分は、版の状態、手彩色の仕方から見てエスノーとラピイ(J. Esnauts et M. Rapilly)によって出版された1778年のオリジナル版とみられる。本館には、さらに手彩色の施されていない白黒版の『ギャルリー』(1788年版)もあり、計3セットの『ギャルリー』を所蔵していることになる。これらを比較してみると、1912年の翻刻版と1778年の手彩色版では色合いがかなり異なっている様子がわかる。

『ギャルリー・デ・モード』に関してさらに詳しくは、本館の『西洋服飾関係欧文文献解題・目録』1980年版の解説を参照されたい。ところで、このロシア装丁版の初めの29枚はバッセ(Basset)が出版した『服飾集』(デレ画、デニ刻)であるが、これは極めて貴重な今では幻のような版画集で、パリ国立図書館、カルナヴァレ博物館でも一部分しか所蔵していない。

図は盛装した若い貴夫人 1778年版。(斎藤)

